

生物多様性を保全、琵琶湖の豊かな自然を育みます



■ 子どもたちに「いきもの」学習の場を — 県内4校にビオトープづくり資金を贈呈 —

滋賀県内の小学校4校に6月、「学校ビオトープ」づくりの資金計200万円を贈呈しました。

お客さまがATMやインターネットを利用し、「エコプラス定期」にお預け入れいただくたびに7円(店頭の定期預金申込用紙代相当額)を当行が負担、集まった資金を県内小学校に毎年贈呈しています。

平成18年の開始以来、助成累計は20校954万円となりました。



学校ビオトープに生息する植物や魚たちと子どもたちの交流が続きます
(膳所小学校・平成22年度贈呈先)



学校ビオトープ

野生生物が生息・生育する空間のことで、子どもたちが自然・いきものと直接ふれあう「環境学習」「遊び」の場です。

■ 琵琶湖は未来からの「預かりもの」 — 金融の役割を通じた生物多様性保全を —

琵琶湖の豊かな生物多様性を保全し、将来世代へ引き継ぐため、しがぎんでは「生物多様性保全方針」を策定。環境対応型の金融商品・サービスの提供や役職員参加型の生物多様性の保全、さらには持続可能な社会の実現に努めます。



■ 外来魚駆除釣りボランティアを実施

急増するブラックバスやブルーギルなどの外来魚を駆除し、琵琶湖の豊かな生態系を守ろうと、「外来魚駆除釣りボランティア」を、草津市の琵琶湖畔で5月21日開催。88名が参加、502匹、20.5kgを釣り上げました。



大物を狙い、竿を握る手にも力が入ります



■ 「いきものにぎわい企業活動コンテスト」で 「農林水産大臣賞」を受賞

当行は「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」(経団連など主催)で「農林水産大臣賞」を受賞、表彰式は10月14日に東京で行われました。

企業の生物多様性保全などの優れた取り組みを顕彰するもので、当行は、フナやモロコの産卵場所を守り・育てる「ヨシ刈り」ボランティア(平成11年開始)や琵琶湖固有種を保護・育成するための「ニゴロブナ・ワタカ放流」(平成19年開始)など、琵琶湖の環境と生態系を保全する「いきものがたり」活動を評価いただきました。



毎年恒例となった「ヨシ刈り」ボランティア